

# 清流だより



令和4年10月4日(火)

北西中学校だより 発行 廣瀬 正純

学校教育目標

「心豊かで かしこく

たくましい生徒の育成」

## 全国学力・学習状況調査の結果について

### I はじめに

本年4月に全国の中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」に本校の3年生も参加しました。

今年度は「国語」「数学」「理科」の3教科が調査対象となり、「学習状況調査」を併せて実施されました。

このたび、本校の分析結果がまとまりましたのでその概要をお知らせし、HPにも掲載いたします。また、調査結果の分析をもとに課題点や改善点等について職員間で共通理解を図り、すべての生徒に確かな学力を育むことができるよう、引き続き授業改善等に取り組んで参ります。

### II 本校の状況（平均正答率で見た本校の状況）

	国語	数学	理科
全国平均との比較	○	○	○
山梨県平均との比較	○	○	○

本校は、国語・数学・理科ともに全国平均・山梨県平均を上回る結果でした。

### III 国語・数学・理科・生徒質問紙の状況

#### ①国語

#### ◎正答率が全国・県平均を大幅に（5ポイント以上）上回った設問（14問中6問）

- ・ 事象や行為、心情を表す語句について理解することができる。
- ・ 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができる。
- ・ 論理の展開などに注意して聞くことができる。
- ・ 場面の展開、登場人物の心情の変化などについて、描写をもとにとらえることができる。
- ・ 表現の技法について理解することができる。
- ・ 自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができる。

#### △正答率が全国・県平均を（5ポイント以上）下回った設問（14問中4問）

- ・ 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することができる。
- ・ 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。
- ・ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。
- ・ 行書の特徴を理解することができる。

### **▲正答率が40%を下回った設問（14問中2問）**

- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。
- ・行書の特徴を理解することができる。

### **○その他**

- ・全体的な傾向として、全国・県の平均を上回っていたが、問題形式が選択式、短答式、記述式のうち、記述式については全国・県の平均正答率を下回っていた。

### **◇今後の取り組み**

- ・「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することができる。」「文脈に即して漢字を正しく書く。」「行書の特徴を理解することができる。」については、授業や家庭学習での漢字の学習を通して、語彙の習得と語感の育成に努めていきたい。また書写の授業を通して、行書の知識をさらに身に付けさせていきたい。
- ・「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。」については、授業の中で場面の展開を捉えたり、情景描写から心情を捉えたりすることを、丁寧に指導していきたい。
- ・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。」については、授業の中で、書いた文章を推敲する場面を設けていきたい。

## **②数学**

### **◎正答率が全国・県平均を大幅に（5ポイント以上）上回った設問（14問中5問）**

- ・自然数を素数の積で表すことができる。
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- ・データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。

### **△正答率が全国・県平均を（5ポイント以上）下回った設問（14問中3問）**

- ・一次関数の変化の割合の意味を理解している。
- ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

### **▲正答率が40%を下回った設問（14問中4問）**

- ・一次関数の変化の割合の意味を理解している。
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

### ○その他

- ・無回答率が全国・県平均よりも低かった。最後まであきらめずに回答している様子が見える。
- ・全体的な傾向として、全国・県の平均を上回っていたが、問題形式が選択式、短答式、記述式のうち、記述式については全国・県の平均正答率を下回っていた。

### ◇今後の取組

- ・反例や一次関数の変化の割合の意味、確率の意味など意外な範囲の理解が乏しかったので、既習事項の確認を行うときに注意していきたい。また、問題解決の方法を数学的に説明できるように、日頃の発展的な問題解決の場をつくり、説明できる力の向上をはかる。
- ・授業やテスト、小テストにおいても記述して表現する場面を設定し、思考力・表現力の向上を図る。

## ③理科

### ◎正答率が全国・県平均を大幅に（5ポイント以上）上回った設問（21問中8問）

- ・モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる。
- ・水を電気分解して発生させる水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを分析して解釈できる。
- ・複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、脚の骨格について共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できる。
- ・課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身につけている。
- ・アリの行列の作り方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを、調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができる。
- ・予想や仮説と異なる結果が出る場面について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の過程の見通しもつことができる。
- ・未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できる。

### △正答率が全国・県平均を（5ポイント以上）下回った設問（21問中5問）

- ・観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身につけている。
- ・継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連づけて、天気の変化を分析して解釈できる。
- ・節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連づけて体のつくりと働きを分析して解釈できる。

- ・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる。
- ・液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できる。

### ▲正答率が40%を下回った設問（21問中6問）

- ・飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できる。
- ・化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連づけ、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして、必要なものを分析して解釈できる。
- ・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる。
- ・地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できる。
- ・液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できる。

### ○その他

- ・無回答率が全国・県平均よりも低かった。最後まであきらめずに回答している様子が見える。
- ・全体的な傾向として、全国・県の平均を上回っていた。問題形式についても選択式、短答式、記述式すべてにおいて全国・県の平均正答率を上回っていた。

### ◇今後の取組

- ・既習事項同士を関連させてとらえること、また、学習した内容と身近な事象とのつながりを見出すことに課題があると感じている。単元ごとに「関係のない独立した事物事象」ではなく、さまざまなことが関わり合っていることを意識し、つながりを認識しながら学習がすすめられるような課題の設定をしていく。
- ・実験や観察を行う際には、その目的を明確にし、考察も必要に応じて視点を確認する等、丁寧に取り組むことで、分析する力や解釈する力を伸ばしていく。
- ・学習して得た知識は机上だけのものではなく、日常生活はさまざまなかたちで自然科学とつながっていることを認知できるような情報を提供する。

## ④生徒質問紙

### ○生活習慣・自分自身について

- ・朝食摂取率については、90%の生徒がほぼ毎日朝食を摂取している。
- ・SNS等の使い方について、保護者との約束を守って使用していると答えた生徒は全国平均・県平均より5%ほど上回っており、約75%の生徒が約束を守って使用していると回答している。

- ・普段（月曜日から金曜日）**1日あたりのゲーム（テレビゲーム・コンピュータゲーム・スマートフォンなどを使ったゲームを含む）をしている時間が4時間以上の生徒は、県平均より5%上回っている。**3時間以上4時間未満の生徒と合わせて、**38%の生徒が平日、1日3時間以上ゲームを行っている。**
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と答えた生徒は県平均より32%、全国平均より41%ほど上回っており、80%の生徒が認められていると、回答している。
- ・「自分でやると決めたことはやり遂げようとしている」「人が困っているときは進んで助けようとする」「人の役に立つ人間になりたい」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した生徒は、全国平均より6～11%高い。
- ・「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」と答えた生徒は、全国平均より11%上回っており、「どちらかという当てはまる」を含めると約7割の生徒が回答している。

### ○学校生活について

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した生徒は県平均より8%、全国平均より13%ほど上回っている。
- ・「友達と協力するのは楽しい」と回答した生徒は全国平均より4%上回っている。

### ○学校での学習について

- ・1, 2年生で受けた授業では「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒は全国平均より14%、県平均より8%上回っている
- ・「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した生徒は、全国より19%、県平均より10%上回っている。
- ・「学級の中で、学級をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決めて取り組んでいる」と回答した生徒は、全国平均より39%、県平均より、21%上回っている。
- ・「授業で学習したことは、将来、社会に出て役に立つと思う」と回答した生徒は、国語では全国より9%、県より4%上回り、数学では全国平均、県平均より共に4%上回っている。また、理科では、全国より17%、県より12%上回っている。

### ○家庭学習・読書習慣について

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらい勉強しているか」について、「**3時間以上**」「**2時間以上、3時間より少ない**」「**1時間以上、2時間より少ない**」は、**全国・県平均より下回っている。**  
**「30分以上、1時間より少ない」が28%と最も割合が高い。**「まったくしない」は、4%となっている。
- ・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どれくらい勉強をしているか」について、「3時間以上勉強をしている」と回答した生徒が、約20%で、全国・県平均と差はない。「1時間以上2時間より少ない」が約30%と最も割合が高い。

- ・「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒は、全国より5%ほど上回っている。
- ・「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどのくらい読書をしているか」について、30分以上読書をしている生徒は全国平均より7%ほど上回っている。

#### ○ICT機器活用について

- ・1, 2年生の時、受けた授業では「コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したかについて」、ほぼ毎日と回答した生徒は、全国平均より12%、県より、16%上回っている。
- ・「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した生徒は全国平均より6%上回っている。

## IV 総括

本校の3年生は、「学力調査」において、国語・数学・理科とも全国平均・山梨県平均を上回る状況であることがわかりました。しかし、それに安心することなく結果をしっかりと分析し、より成果が上がるよう努めたいと思います。

「学習状況調査」において、生活習慣も安定していて、家族内でのルールもしっかり確立できていることがわかりました。また人間関係についても全体的に良好であることもわかりました。

学習面では、家庭学習がまだ定着していない状況はありますが、「学習意欲」や「学習の大切さの認識」が比較的高く、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」については全国平均・県平均と比較して、10～15%も高いことから、昨年度までの校内研究で目指した、「ICTを活用した、個別最適化された授業づくりを通して自ら学び考える生徒の育成」が効果的に働いていたことが、学習成果につながったとも考えられます。

家庭での学習時間の定着、自主的に学習に向かう環境づくりについては、ゲーム（テレビゲーム・コンピュータゲーム・スマートフォンなどを使ったゲームを含む）の長時間化とも合わせて、ご家庭と連携した取組を継続していきたいと考えています。

学習意欲や学力の向上には、教師や生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気の中で、達成感を得たり、自己肯定感を高めたりすることが重要と考えられています。

調査にある「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と答えた生徒が、80%以上と県平均・全国平均より大幅に上回っており、本校はひじょうにより人間関係の中で学校生活を送られていることがわかりました。さらにこの環境を維持向上させていき、学習意欲や学力の向上につなげていきたいと思ひます。

ICT機器の活用については、多くの生徒がICT機器を使うのは勉強の役に立つと考えており、引き続き一人一台端末の有効活用に努めていきたいと思ひます。

新型コロナウイルス感染症の感染は、いまだ収束の見通しが立たない状況にありますが、どのような状況になっても生徒の学びをとめないこと、またより一層生徒一人一人の心のケアにも力を入れていきたいと思ひます。

今後も一層のご理解とご協力をお願いいたします。